

## 取扱いの趣旨

間接歯髄保護処置を行った後、疼痛の発生等の症状によりやむを得ず同一歯に対して当該処置に伴う暫間充填を改めて行う場合があることから、この場合においては、同月内に日を異にして行ったう蝕処置の算定は原則として認められる。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《平成29年2月27日》

### 46 う蝕処置

#### ○ 取扱い

原則として、間接歯髄保護処置後、同月内に日を異にして同一歯に暫間充填を行った場合、う蝕処置の算定を認める。

#### ○ 取扱いを定めた理由

間接歯髄保護処置を行った後、疼痛の発生等の症状によりやむを得ず当該処置に伴う暫間充填を改めて行う場合があり、こうした場合においては、暫間充填としてのう蝕処置が必要となる。

#### ○ 留意事項

間接歯髄保護処置後、同月内に日を異にして同一歯に対するう蝕処置の算定が傾向的にみられる場合にあっては、医療機関に対する照会が必要であると考えられる。

## グラフの見方

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

う蝕処置を算定しているレセプト1万件当たり、条件（歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）の翌日以降にう蝕処置を算定）に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、う蝕処置が査定・返戻となった割合

#### 【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0.06%
- 検証を必要とする支部 25支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	高知、大分、奈良、沖縄、栃木、山梨、群馬	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	奈良	対象1万件当たり査定件数の多い順
査定・審査委員	大分、沖縄、奈良、徳島、熊本、京都、山形	〃
返戻	高知、栃木、新潟、山梨、群馬、秋田、沖縄	対象1万件当たり返戻件数の多い順
該当件数（全国）	歯髄保護処置（間接歯髄保護処置）の翌日以降にう蝕処置を算定	97,533件
取扱いに基づく審査	請求どおり	97,474件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	59件

# 事例46 間接歯髄保護処置後のう蝕処置の取扱い

【認める事例】

